

多様化するキャリアを見据えた 教育改革への挑戦

— 甲南高等学校・中学校の教育カリキュラムはいかに変革したのか

変化が著しく明確な正解がない時代を迎え、学校教育のあり方も変化することを問われています。甲南高等学校・中学校はその変化をいち早くとらえ、2014年にコースの改編を行いました。創立者・平生飢三郎による建学の理念を受け継ぎながら推し進められている教育改革の中身とは。山内校長、足立副校長に語っていただきました。



甲南高等学校・中学校
副校長 足立 恵英

甲南高等学校・中学校
校長 山内 守明

コース改編、 その背景にある社会の変化

— 2014年に大幅なコースの改編を行いました。その目的を教えてください

山内：かつては本校に入学すれば、甲南中高で6年間、自分の好きなことに打ち込み、甲南大学に進学して専門教育を受け社会人になるという流れが主流でした。しかし近年は、中学の早い段階から将来のキャリアを意識し、そのキャリアを実現するために大学で何を学ぶべきかを考える志向に変わっています。子どもたちはもちろん、保護者の希望も多様化しており、それに伴い進路も多様化しています。こうした背景から、文Ⅱ・理数コースの発展的解消を行い、「フロントランナー・コース」を設け、文Ⅰコースを発展させて「アドバンスト・コース」を設置しました。

足立：フロントランナー・コースは、サイエンスとグローバルに特化し、高度な学力と21世紀型のスキルを育成するカリキュラムでは高校カリキュラムを高2で修了、アドバンスト・コースでは高三の1学期で修了し、目標とする進路に備えます。

— コース改編から8年が経ちました。生徒の進路に変化はみられますか

足立：フロントランナー・コースを設置したことで、理系志向の強い受験生が増加しました。そのため進路も、国立大学の多様な理工系学部への進学者が増え、現役で国立大学の医学部に進学する生徒も輩出しています。また、グローバル・スタディ・プログラム履修者による海外大学への進学も増え、兵庫県の高校の中では海外進学者が多い学校として注目されています。

変わらない「ひと創り」の精神

— 最後に、改めて甲南高等学校・中学校がめざす教育についてお聞かせください

足立：魅力あるコースやカリキュラムに刷新する一方で、変わらず貫いているもの、それが創立者の平生飢三郎先生が掲げた建学の精神・理念です。本校の教育は、人格の形成を第一とし、生徒の個性を伸張させつつ、広く社会に貢献できる人材を輩出することを目的としています。コース改編の翌年には、社会の各分野で活躍されている方々の話を聞く「ソフィア講演会」を開始しました。年2回、中高6年間で12回にわたり第一線で活躍する著名人の考え方に触れることが、「いかに生きるか」を考え、志を立てる良い機会となっています。今後も、社会で生きる力を育む、「ひと創り」の甲南を掲げていきます。

ムになっています。一方のアドバンスト・コースは、グローバル感覚と幅広い教養、真の国際人としての資質を身につけ、主体的に課題解決を行える人材の育成をめざしています。

— フロントランナー・コースには、どのような特徴的なカリキュラムがありますか

山内：中学2・3年時に、サイエンス・ラボ、グローバル・ラボという、思考力と表現力を養うアクティブラーニングでの授業が組み込まれています。サイエンス・ラボでは2時間連続の授業を通して物理・化学・生物・地学の各分野の高度な実験を行い、考察と主体的なレポート作成を行います。またグローバル・ラボでは、世界、平和、歴史、環境といったテーマを設定し、専門家を招聘して深く学び、クラスメイトと議論したり、協働して課題解決へのプレゼンテーションを行ったりします。この2つのラボで科学的思考力や論理的思考力が磨かれます。

— アドバンスト・コースはいかがでしょうか

足立：考え、発言し、行動する探究型の授業を多く取り入れています。アドバンスト・コースには、海外留学を経験するグローバル・スタディ・プログラムがありますが、た

たとえば「グローバルリサーチ」という授業では、SDGs(持続可能な開発目標)からテーマを選び、文献調査、フィールドワーク、インタビューなどを行い、外部の専門家を座長に招いてプレゼンテーションを行います。また、高校一年生の「キャリアデザイン」では、企業訪問を行います。卒業生が社長を務める企業も多く、そこから出された課題に対し、自らのビジネスプランを提案するなど、将来のビジネスリーダーとしての資質を身につける授業を展開しています。

刺激を与え、 剥がれ落ちない学力を養う

— 従来型の詰め込み教育とは一線を画した、さまざまな授業を用意していますね

山内：中高生の時期にどれだけ知的好奇心を喚起させられるかが重要だと考えています。教科書で学ぶだけではなく、現在社会で問題となっているテーマに触れて実際に考え、アウトプットして身につけることが、「剥がれ落ちない」学力につながります。

足立：そうした参加体験型の授業と学力の向上とを両立できるように、授業数をフロントランナー・コースでは週37時間、アドバンスト・コースでは週34時間としています(一般的には週30時間)。フロントランナー・コース

→ サイエンス・ラボ(中学2・3年生対象)



実験・実習を2時間続きで行う授業。教科書の単元にとらわれない実験で科学的な好奇心を刺激する。実験結果の考察から科学的思考力を養う。生徒たちが楽しみにしているのが、「ロケットを飛ばそう」と題した実験で、離れた地点で角度を測定し、ロケットの到達高度を求める。

→ サイエンスツアー(高校二年生対象)



フロントランナー・コースの希望者を対象にアメリカへのサイエンスツアーを実施。NASAケネディ宇宙センターで最先端技術に触れ、フロリダ工科大学(FIT)で海洋生物の生態を学んだり天体観測に参加。FITのランゲージスクールで理系英語を勉強する機会も得られる。

→ グローバル・スタディ・プログラム(高校二・三年生対象)



アドバンスト・コースで選択できる国際教育に特化したカリキュラム。グローバル人材に不可欠な英会話力、英文読解力、英作文力を身につけ、世界史を俯瞰、国際政治経済分野についても体系的に学ぶ。3か月~1年間の留学を体験し、帰国後はその体験を論文にまとめ、英語の授業で発表する。

→ ソフィア講演会(全学年対象)



「いかに生きるか」という哲学観を持つことと自らの「志を立てる」ために、年に2回、各界の著名人をゲストに迎え講演会を開催。高中OBのミズノ株式会社・水野正人会長(当時)や心臓外科医・須磨久善先生のほか、アルビニストの野口健氏、京都精華大学学長のウズビ・サコ氏(当時)など多彩な顔触れ。